

①第3次しばた男女共同参画プランに基づく平成25年度事業実績書及び平成26年度事業計画書について

【作山委員】

- ・ 事業実績報告書において数値をきちんと入れて報告されている事業名：施策については実感が得られ動向がわかり非常によいと思われます。
- ・ 介護保険事業：サービスの充実については、今最も注目されている介護保険関係についても、利用者相談数などは増えているのかどうかは知りたいところです。
- ・ 子育て・親育ち講座の家庭教育講座数をみるとニーズがあること、地域性があるが親の関心の高さが伺われます。これは今後も充実させていく必要性を感じました。
- ・ 男性の地域参画支援：地域デビュー事業と男性の家庭参画を促す講座の充実もリンクしており重要になってくると考えます。子育て・現役時代は時間的な余裕がないかもしれません。参加している年代を知りたいと思いました。高齢者であるならばあえて工作よりも生きていくために必要不可欠な調理を徹底して取り上げるのもいいのではないかと考えます。ひとり暮らし世帯が多くなると予測されております。命をつなぐための簡単な栄養充足した食事づくりはストレス解消にもなり、社会的なつながりのきっかけにもなるかと考えます。また、これは家庭生活における男女共同参画の推進に挙げられていますが（3）の生涯を通じた心身の健康づくりの健康教室：食生活改善推進事業講座とのリンクする部分も大いにあるように感じます。男女共同参画は男性も女性も健康でなければ自己実現もあり得ない話です。個別施策はいろいろあってよいのですが、事業名はまとめてスリム化し予算もバラバラに使うのではなく集約して使うことが出来るのではないかと考えました。事業名が細分化しすぎていないのか、目的は違っていても具体的な事業面の工夫も必要かと考えます。
- ・ 学童保育事業の充実と男性の地域参画支援をリンクさせ、囲碁・将棋を放課後、子供たちに教えたなら、子どもたちの考える力等は訓練されるのではないのでしょうか。高齢者も若い人へ教えることがあり、交流があることは認知能力の活性化につながると考えます。
- ・ 災害復興への女性の意見の集約と計画への反映は女性の参加を依頼して、参加できたのか、もう少し詳しく知りたいところです。
- ・ 2025年問題として団塊の世代が後期高齢者になる時期が、認知症高齢者の増加など予想され危機感が持たれています。医療費を最小限に抑えるために健康作りは最も強化すべき点であろうかと考えます。「食生活改善推進員養成講座」は地区住民のリーダー養成を目的としているとするならば、受講後どのようなかたちで活動をしているのか。女性の地域リーダーもこの講座が活用できるのか。注目したい。セットでなく単発の参加、男性の「メタボ退治クッキング、男子厨房に入るクッキング」や免疫力アップクッキング、親と子供のクッキング等、広がっていきそうですが。

【牛澤委員】

- ・ 一部を除いては、ご指示の通り、実績が数値化されて、評価しやすかったです。
- ・ 平成 25 年度実績書と平成 26 年度計画書が全く変わらないということもあるとは思いますが、具体化されていないと、本当に検討しているのだろうかと思いました。
- ・ 「女性」の文字増えたように思います。評価できます。
- ・ 「父と子」や「低学年から」という一歩進んだ内容も評価できます。
- ・ 子どもセンター開所により、父親・母親・地域の人たちに動きがあるでしょうか。楽しみです。

【大野委員】

25 年度の実績書では、前回指摘されていた実績人数も詳しく記載されていて、審議会での意見が反映されていることが伺えました。

また、前年度から 25 年度を比較しても、取り組む内容も増えてきており、審議会の役割の意味を感じました。

ただ、各課共通しているのですが「このような企画で参加人数何名」との報告はありますが、どのような成果で進んでいるかが見えません。記載する場所が少ないためでしょうか。計画書ではなく実績書なのでもう少し詳しく記載する方向でお願いします。

◎事務局回答

- ・ 包括支援事業の総合相談支援業務では
平成 24 年度 3,693 件 → 平成 25 年度 4,407 件 (714 件増)
- ・ 男性の地域参画支援の参加年代については審議会当日まで確認します。
- ・ 災害復興への女性参加については、平成 25 年度に方針決定し、今年度依頼予定です。前回の防災会議は全員が男性でしたが、今回は 25 人を定員に防火クラブ会員や民生委員など 5 人程度 (20%) 女性の参画を想定しています。
- ・ 記載内容が変わらない、どのような成果が得られているか分からないといった点については、次年度以降より具体的な標記に周知を図ります。

②平成26年度男女共同参画推進事業について

【作山委員】

案1) に賛成します。他市町村でない自分たちの計画見直しをしてお弁当を食べながら発表会はどうでしょうか。

【牛澤委員】

案1～3をバラバラに考えるのも難しいです。

案1) 行政区の協力をいただければ、そこから発信できることもあるでしょう。負担はないでしょうか。

案2) 講演の内容が生かせる気がします。

案3) 一度はやってみることが必要だと思います。

※社協さんにノウハウがあるのではないのでしょうか。

【大野委員】

前回の講座では避難所の運営をするにあたり、様々な問題点を年代も違う人たちがグループになり、たくさんの意見を出し合いました。参加した方も時間が足りないくらい有意義な時間を過ごされたようです。

今回は、前回の講座を受講された方にもお誘いの通知をし、前回の講座が生かせるようなステップアップしていけるような内容と、今回から参加される方にも敷居の低い内容を織り交ぜた「案②避難所運営シミュレーション」がよろしいかと思います。その後予算があれば、早い段階で防災訓練等につなげていきたいです。なぜなら、前回は良い企画でしたが、だいぶ時間が経過しています。若い方ばかりではないので、あまり時間をおくと受講した内容を思い出すのにも時間がかかります。「鉄は熱いうちに打て!」です。やる気のあるうちに早めに行うことと、男女共同参画を推進していく上でも講座の回数を増やしていただければと思います。

【伊藤委員】

- ・ 災害にもいろいろありますが、すべての災害を想定した体制ですか。
- ・ 災害時、要支援者はどのくらいいるのですか。
- ・ 個人情報等の問題でご苦労されていることはありませんか。

◎事務局回答

- ・ 社協から情報提供いただきましたので資料を添付します。
- ・ 災害体制についてはすべての災害を想定しています。
- ・ 平成25年度末現在の要支援認定者は283人、要介護者認定者は1,145人です。

③第4次しばた男女共同参画プラン策定方針について

【作山委員】

引退した元気高齢者を幼児・学童の教育等にも参加させる仕組み作りもあってよいのではと考えます。高齢者の知恵を活用して生活の力を向上させることも幸福につながると考えます。

【牛澤委員】

「女性の登用を図る計画」既に社会人として活躍されている方は、なおいっその教育が必要と思われますし、将来に向けて考えるのであれば、中・高生の教育も重要であると思われます。

「町が取り組むべき課題」これを早く明確にすることによって解決策が見つかるのでは。さて、課題は？

【大野委員】

女性の労働力が必要で、男性のように働きたい女性は多いと思います。現在の日本では、何かを犠牲にしないと無理な状況です。結婚をして子どもを産んで育児休暇を取って戻っても以前のように仕事はできず、祖父母と一緒にならばなんとかこなしても、今度は祖父母の介入のし過ぎで夫婦仲がうまくいかなかったため離婚。または離婚により、子どもの為に社員からパートタイマーになり収入は激減し、貧困状態。現に何らかの理由で6人に一人の割合で子どもが貧困になっているそうです。働いている環境が子育て中の親にどれだけ理解と協力をしていけるかが、女性の躍進を推進するカギとなるのではないのでしょうか。パパとママが、いきいきと仕事に子育てに、仲良くお互いを尊重しながら協力し、生活することは、子どもにとって一番しあわせなことだと思います。子どもたちの幸せのためにも、働く女性や共働き世代を応援できる企業の認定やその企業には町から助成する方法なども盛り込んだ第4次プランの策定になればと思います。

【伊藤委員】

- ・ プラン策定の指標として、住民アンケート調査の調査対象は妥当なのか、また回収率の予想は。

◎事務局回答

- ・ アンケート調査により現計画の進捗よくと町民が求める成果のギャップを認識し、審議会の意見を聴取し計画の策定に取り組みます。
- ・ アンケートの対象は20歳以上の男女1,000人、回答率30%を想定しています。
(前回回収率29.5%)